

大島安昌院境内出土備蓄錢について

白木 英敏

1. はじめに

昭和六十（一九八五）年に刊行された『大島村史』^①の記述により、宗像市大島一六三番地にある曹洞宗の寺院、安昌院に中世の備蓄錢が伝わっていることは知られていた。しかし、錢貨やそれを納めた中世須恵器などの詳細な調査は未実施であったため、令和二（二〇二〇）年に錢貨の採拓や計測、土器実測などを行い、その成果を紹介する。

2. 発見の経緯

戦時下の昭和十九（一九四四）年、安昌院裏の畑で防空壕を掘っていた時に偶然壺を発見、中に約七〇^キの古錢が収められていた。このときの備蓄錢は、時世もあつてほとんど軍に供出されてしまったが、その際、幸いにもサンプルとして錢種ごとに複数枚を選出し、錢貨を収めていた壺とともに安昌院に保管されていた。このことは、錢貨のサンプルを収納していたコインアルバムの表紙裏に貼付されていたメモにより知ることができる。以下メモの記述を掲げる。

昭和十九年安昌院裏の畑で防空壕を掘っていて、ツボを発見、

七十キロの宋錢を掘りあてた。中国の宋錢で明時のものもあった。日本の鎌倉・室町時代のツボに入っていた。種類七十八種、この頃（約八百年前）は中国との貿易も盛んで大島がその交流の要路にあつたことがわかる。北大竹岡勝也氏、九大小島均氏らの証言。軍需用として供出した。

文中にみえる竹岡勝也（一八九三年十一月十日～一九五八年九月三十日）は、国学研究を中心に、日本思想史を専門とする日本の歴史学者である。九州帝国大学教授から昭和二十六（一九五一）年五月には北海道大学教授となり、昭和三十（一九五五）年五月には東北大大学教授へ転じ、定年後の昭和三十二（一九五七）年には國學院大學教授となった。竹岡は北海道大学時代の昭和二十六～三十年の間にコメントを残したと考えられるが詳細は不明である。

3. 出土錢の内容

現在に残されている錢貨は三十四種七十六枚である。メモ書きには種類七十八種とあるが、備蓄錢に含まれる錢種として七十八種は多く、寺院での保管状況を勘案すると種は枚の誤りとみられ、当時^②より二枚減じている。最古錢は乾元重宝^{けんげんじゅうほう}（唐・初鑄七五八年）、最

新銭は洪武通宝（明・初鑄一三六八年）で、南唐や金・南宋・元代の銭貨も数枚含まれるが、二十四種を数える北宋銭が銭種の約七〇％を占める。全枚数の中に占める割合は不明だが、北宋銭の比率は全国的な状況に合致し、銭種については若干少ないようだが、当時の状況を考えれば丁寧なサンプリングであろう。希少と言えるほどの銭種は見当たらないが、宣和通宝の折二銭（二文銭）や正隆元宝、大宋元宝、至大通宝は、出土数に占める銭種の割合が〇・一％未満とされる⁽³⁾。

4. 埋納容器について

中世須恵器の壺である。大きさは口径一二・五センチ、頸部径一二・二センチ、器高四〇・〇センチ、底径一八・四センチ、胴部最大径三三・〇センチを測る。口縁部の三分の一程度と肩部のごく一部を欠くが、ほぼ完形品で、現住職によると発見時の破損という。底部は平底で胴部は丸みを帯び、頸部から口縁部の立ち上がりは短く端部を外に引出し玉縁状に収める。胎土はやや粗く一ミ以下の砂粒、二ミ程度の小礫を含み、無釉で焼成は並、色調は暗灰色を呈する。調整は、底部に粗いハケ目が明瞭に残り、底部と胴部の境を静止ヘラ削りで隅丸に整えている。胴部は下半には粘土帯の痕跡が残り、板状工具と考えられる強いナデで仕上げ、肩部は丁寧なナデで仕上げている。頸部から口縁部にかけては回転ヨコナデである。胴部内面を観察すると、肩部付近にまで銭貨の銅イオンが付着した暗灰色の圧痕が観察できることから壺内は銭貨で満たされていたことがわかる。なお、メモ書きによると、壺に収められていた銅銭の重さは七〇キとあり、仮にサン

プリングされた銅銭一枚当たりの平均重量三・六グラムで換算すると、おおむね一万九千〜二万枚ほど収められていたと推測できる。

産地の比定については困難だが、安定感のある平底とシンプルで復古調の口縁部を持ち、東播系須恵器など広域流通品に同種のものは見当たらない。窯跡未確認の在地土器とみられ、時期については明言しがたいが、鎌倉時代後期から室町時代前期頃の十四世紀代に考えておきたい。

5. まとめ

埋納年代については、そこに含まれる銭貨のなかで最も新しく鑄造された洪武通宝の初鑄年を上限とし、永樂通宝（明・初鑄一四〇八年）を含まないことや埋納容器である中世須恵器壺の時期を考慮すると、室町時代の前半期、十四世紀後半〜十五世紀初頭頃に考えられる。鈴木公雄の備蓄銭の時期区分によると三期に相当し、全国的に十萬枚以上の備蓄銭がみられる大規模備蓄銭期とされる⁽⁴⁾。すでにメモ書きで竹岡が「この頃は中国との貿易も盛んで大島がその交流の要路にあったことがわかる」と述べているように、中国を中心とした東アジア交易圏が活況な中、宗像氏の庇護下にあった大島においても日明貿易の開始期前後の貨幣経済を享受し、中世日本の経済活動を担っていたことが分かる好資料である。

註

（１）安川浄生「第３章氏貞を中心とする中世の争乱」大島村教育委員

会編『大島村史』大島村、一九八五年、九七頁

- (2) 量的に安定して存在する錢種は一万枚以上の備蓄錢においては四十
〜五十種台とされる。参考文献…鈴木公雄「第1部第2章2出土
備蓄錢の錢種構成」『出土錢貨の研究』一九九九年、二五〜六六
頁

- (3) 参考文献…永井久美男『新版中世出土錢の分類図版』高志書院、二
〇〇二年、例言(12)、iii他

- (4) 参考文献…鈴木公雄「第1部第3章3各時期の出土備蓄錢の分布」
『出土錢貨の研究』一九九九年、六六〜七八頁

参考文献

鈴木公雄「出土備蓄錢と中世後期の錢貨流通」『史学』第六十一卷第三・

四号、三田史学会、一九九二年

鈴木公雄『出土錢貨の研究』東京大学出版会、一九九九年

小畑弘己「出土錢貨研究の地域的現状 九州・沖縄地方」『季刊考古学』

第七十八号、雄山閣、二〇〇二年

永井久美男『新版中世出土錢の分類図版』高志書院、二〇〇二年

櫻木晋一『貨幣考古学序説』慶應義塾大学出版会、二〇〇九年

八丁由香編『久原一括出土錢』福岡県糟屋郡久山町大字久原出土一括出
土錢の調査報告書、久山町文化財調査報告書第十七集、久山町教育委
員会、二〇一三年

(しらきひでとし 原始・古代部会)

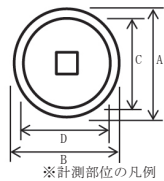


表1 備蓄銭計測表

No.	銭貨名	初铸年	読方	書体	裏文字	国 王朝	計測値						備考
							A	B	C	D	厚さ	重さ	
1	乾元重宝	758	対	真書	なし	唐	24.4	24.4	20.5	20.5	1.1~1.2	3.2	当十銭、ウラ面外輪不鮮明
2	唐国通宝	959	対	篆書	なし	南唐	24.2	24.2	18.9	18.5	0.9	2.6	ウラ面外輪不鮮明
3	唐国通宝	959	対	篆書	なし	南唐	24.5	24.5	18.6	18.6	0.8	2.6	ウラ面外輪不鮮明
4	宋通元宝	960	順	真書	なし	北宋	24.8	24.6	18.0	18.1	1.2~1.3	3.3	ウラ面外輪不鮮明
5	太平通宝	976	対	真書	なし	北宋	24.4	24.3	18.0	18.0	1.1	3.4	
6	太平通宝	976	対	真書	なし	北宋	24.4	24.4	18.6	18.6	0.9~1.1	3.0	
7	淳化元宝	990	順	真書	なし	北宋	24.4	24.4	17.6	17.6	1.1	3.6	
8	淳化元宝	990	順	草書	なし	北宋	24.5	24.5	18.1	18.0	1.2	4.0	
9	至道元宝	995	順	真書	なし	北宋	24.8	24.8	18.5	18.5	1.0	3.5	
10	咸平元宝	998	順	真書	なし	北宋	24.3	24.4	18.0	18.0	1.1	3.5	
11	咸平元宝	998	順	真書	なし	北宋	24.4	24.3	18.1	18.2	1.1~1.2	4.0	オモテ面磨減
12	景德元宝	1004	順	真書	なし	北宋	24.4	24.4	—	18.7	1.1~1.2	3.4	
13	景德元宝	1004	順	真書	なし	北宋	24.4	24.5	19.5	19.2	1.2~1.3	4.0	
14	祥符通宝	1008	順	真書	なし	北宋	24.9	24.8	19.4	19.2	1.1~1.2	3.4	やや反る
15	天禧通宝	1017	順	真書	なし	北宋	25.0	25.1	20.5	20.5	1.1~1.2	3.6	湯回り不良、やや反る
16	天禧通宝	1017	順	真書	なし	北宋	25.0	24.9	—	19.7	1.0	3.5	磨減著しい
17	天聖元宝	1023	順	真書	なし	北宋	24.6	24.8	19.8	19.8	1.2	4.0	ウラ面外縁不鮮明
18	天聖元宝	1023	順	真書	なし	北宋	24.6	24.7	20.2	20.0	1.1~1.2	3.6	湯回り不良、文字不鮮明
19	天聖元宝	1023	順	篆書	なし	北宋	25.2	25.1	20.8	20.8	1.3~1.4	4.0	湯回り不良、文字不鮮明
20	天聖元宝	1023	順	篆書	なし	北宋	25.5	25.4	21.9	21.9	1.2~1.3	4.3	
21	天聖元宝	1023	順	篆書	なし	北宋	24.9	24.9	20.1	20.1	1.1~1.2	3.9	
22	天聖元宝	1023	順	真書	なし	北宋	23.9	23.6	—	—	1.1	2.8	湯回り不良、文字不鮮明
23	天聖元宝	1023	順	篆書	なし	北宋	24.3	24.4	19.1	18.8	1.2~1.3	4.0	文字やや不鮮明
24	明道元宝	1032	順	真書	なし	北宋	25.2	25.2	20.8	20.2	1.0~1.1	3.4	ウラ面外輪不鮮明・ごく一部欠け
25	明道元宝	1032	順	篆書	なし	北宋	25.6	25.6	20.6	20.8	1.3~1.4	5.0	
26	明道元宝	1032	順	篆書	なし	北宋	23.6	23.3	20.6	20.2	1.1	3.0	摩輪
27	景祐元宝	1034	順	真書	なし	北宋	24.4	24.4	21.6	21.3	1.2~1.3	3.5	
28	至和元宝	1054	順	篆書	なし	北宋	23.8	23.7	18.0	18.4	1.1~1.2	3.7	
29	至和元宝	1054	順	篆書	なし	北宋	23.8	23.6	18.6	18.6	1.3	4.0	湯回り不良、ス穴あり、孔ずれ
30	嘉祐通宝	1056	対	真書	なし	北宋	24.2	24.3	18.6	18.6	1.1	3.3	オモテ面研磨による磨減
31	嘉祐通宝	1056	対	真書	なし	北宋	24.6	24.5	18.5	18.6	1.2	3.6	
32	嘉祐通宝	1056	対	篆書	なし	北宋	24.4	24.4	19.1	19.1	1.1	3.7	湯回り不良、文字不鮮明
33	嘉祐通宝	1056	対	篆書	なし	北宋	23.6	23.4	19.4	19.2	1.3~1.4	4.3	湯回り不良、文字不鮮明
34	嘉祐元宝	1056	順	篆書	なし	北宋	24.4	24.4	20.2	19.9	1.1	3.3	湯回り不良、文字不鮮明
35	嘉祐元宝	1056	順	篆書	なし	北宋	23.4	23.4	17.5	18.0	1.2	4.0	
36	嘉祐元宝	1056	順	篆書	なし	北宋	24.9	24.8	20.0	20.0	1.0~1.1	3.5	
37	治平元宝	1064	順	真書	なし	北宋	24.4	24.1	18.8	19.0	1.2	3.8	
38	治平元宝	1064	順	真書	なし	北宋	23.9	24.0	18.6	18.6	1.2~1.3	3.8	
39	治平元宝	1064	順	篆書	なし	北宋	23.8	23.8	—	—	1.0	3.3	磨減、文字不鮮明
40	治平元宝	1064	順	篆書	なし	北宋	24.0	23.9	—	17.5	1.2~1.3	3.9	
41	治平元宝	1064	順	篆書	なし	北宋	23.0	23.3	18.6	18.6	1.3~1.4	3.8	やや歪み
42	熙寧元宝	1068	順	真書	なし	北宋	25.0	25.0	20.0	20.1	1.0~1.1	3.8	外輪一部欠け
43	熙寧元宝	1068	順	篆書	なし	北宋	24.0	24.0	19.3	18.6	1.2~1.4	5.0	
44	熙寧元宝	1068	順	篆書	なし	北宋	23.6	23.8	19.1	19.1	1.0~1.1	3.6	
45	熙寧元宝	1068	順	篆書	なし	北宋	23.7	23.8	19.6	—	0.9~1.1	3.1	磨減、文字不鮮明、厚み薄い
46	熙寧元宝	1068	順	篆書	なし	北宋	24.5	24.3	—	18.5	1.2	4.2	磨減、文字不鮮明
47	元豊通宝	1078	順	行書	なし	北宋	25.0	25.0	18.5	18.3	1.1	4.1	
48	元祐通宝	1086	順	篆書	なし	北宋	23.8	23.8	—	18.6	1.2~1.3	4.0	外輪一部欠け
49	元祐通宝	1086	順	篆書	なし	北宋	23.9	23.8	19.8	19.8	1.2~1.3	4.2	
50	紹聖元宝	1094	順	行書	なし	北宋	23.8	23.8	18.0	18.4	1.2	3.5	
51	元符通宝	1098	順	篆書	なし	北宋	24.4	24.5	19.1	19.6	1.2~1.3	4.1	
52	元符通宝	1098	順	行書	なし	北宋	23.7	23.6	17.4	17.4	1.2~1.3	3.9	磨減、文字不鮮明
53	聖宋元宝	1101	順	篆書	なし	北宋	23.8	23.7	18.2	18.1	1.2	3.8	外輪一部欠け
54	聖宋元宝	1101	順	篆書	なし	北宋	23.5	23.4	19.3	19.3	0.9~1.0	2.9	湯回り不良、文字不鮮明
55	聖宋元宝	1101	順	篆書	なし	北宋	23.7	23.4	19.5	19.8	1.1	2.9	磨減、文字不鮮明、外輪僅かに欠け
56	大観通宝	1107	対	真書	なし	北宋	24.3	24.2	20.4	20.4	1.2	3.5	
57	大観通宝	1107	対	真書	なし	北宋	24.3	24.1	20.7	20.2	1.2~1.3	3.7	
58	政和通宝	1111	対	隸書	なし	北宋	24.2	24.0	20.1	20.1	1.4~1.5	4.0	
59	政和通宝	1111	対	隸書	なし	北宋	24.2	24.4	20.6	20.0	1.1~1.2	3.4	
60	政和通宝	1111	対	隸書	なし	北宋	24.5	24.4	20.9	20.4	1.1	3.2	
61	政和通宝	1111	対	篆書	なし	北宋	24.3	24.3	21.5	21.1	1.1~1.2	3.2	
62	政和通宝	1111	対	篆書	なし	北宋	24.3	24.5	20.4	20.9	1.2~1.3	3.9	湯回り不良、ス穴あり、外輪一部僅かに変形
63	宣和通宝	1119	対	真書	なし	北宋	24.8	24.7	20.5	20.6	1.1~1.3	3.6	
64	宣和通宝	1119	対	篆書	なし	北宋	26.7	26.6	—	—	0.8~0.9	3.4	折二銭、磨減、文字極めて不鮮明、厚み薄い
65	正隆元宝	1157	順	真書	なし	金	24.6	24.6	21.0	21.1	1.0~1.1	2.9	
66	正隆元宝	1157	順	真書	なし	金	24.8	25.0	21.0	21.1	1.2	3.7	
67	慶元通宝	1195	順	真書	なし	南宋	23.6	23.7	19.6	19.2	1.2	3.1	湯回り不良、孔不整形
68	嘉定通宝	1208	対	真	なし	南宋	23.9	24.0	19.5	20.4	1.1~1.2	3.6	磨減、不鮮明
69	大宋元宝	1225	順	真	三	南宋	24.4	24.4	19.2	19.5	1.2	4.1	
70	大宋元宝	1225	順	真	三	南宋	24.4	24.4	18.8	19.2	1.2	3.7	
71	紹定通宝	1228	対	真	未確認	南宋	23.9	24.0	19.2	19.6	1.0~1.2	3.2	湯回り不良、ス穴あり
72	紹定通宝	1228	対	真	四	南宋	23.8	23.9	20.0	20.2	1.2~1.3	3.7	
73	至大通宝	1310	対	真書	なし	元	23.8	23.9	18.2	18.1	1.2~1.3	3.1	湯回り不良、ス穴あり
74	至大通宝	1310	対	真書	なし	元	23.0	23.4	17.9	17.9	1.4	3.2	孔不整形、歪みあり
75	洪武通宝	1368	対	真書	漸	明	24.4	24.6	20.3	20.0	1.2	4.4	
76	洪武通宝	1368	対	真書	漸	明	24.8	24.8	20.3	20.0	1.3~1.4	4.4	

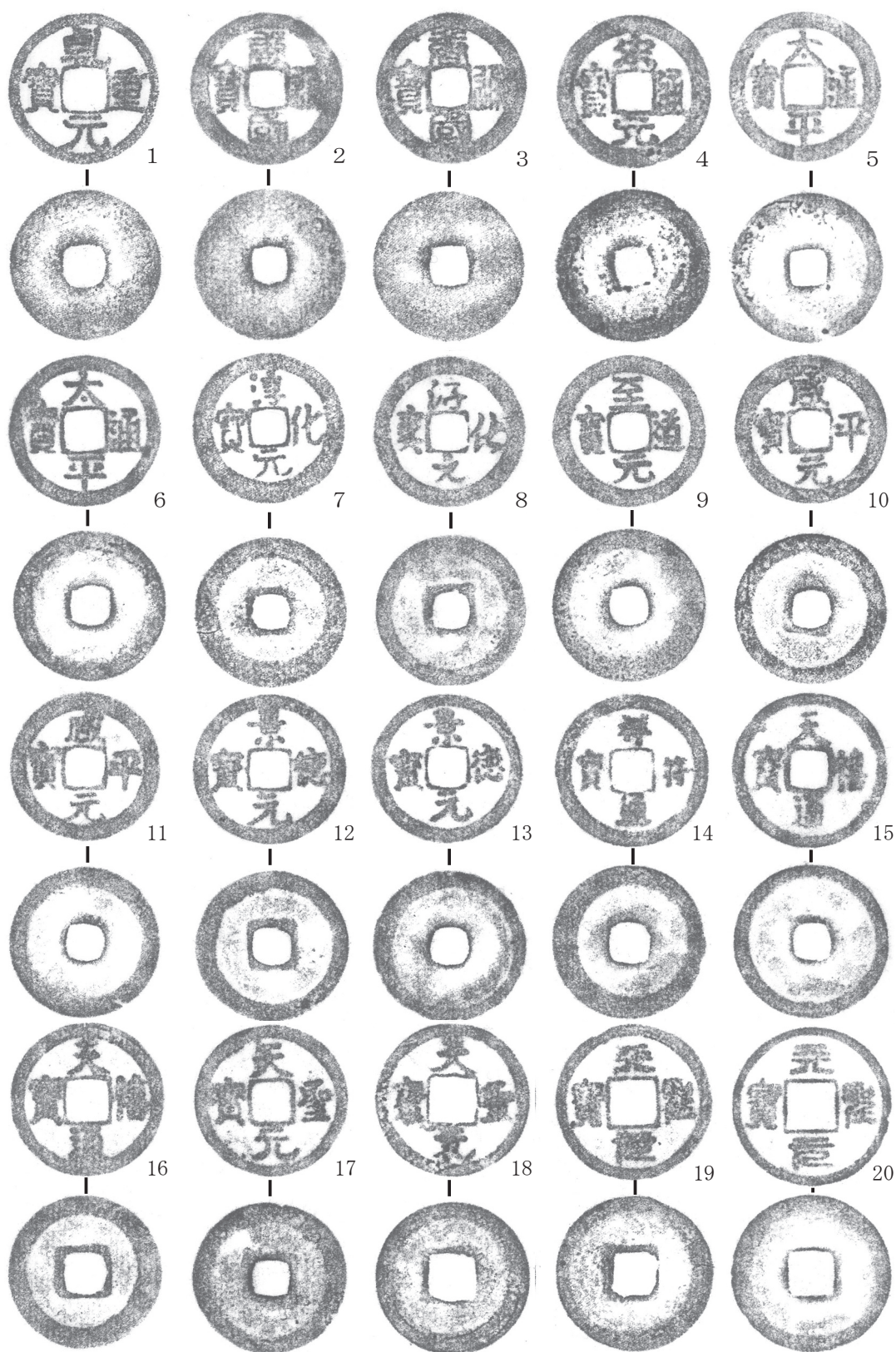


圖 1 備蓄錢拓影 (1/1)

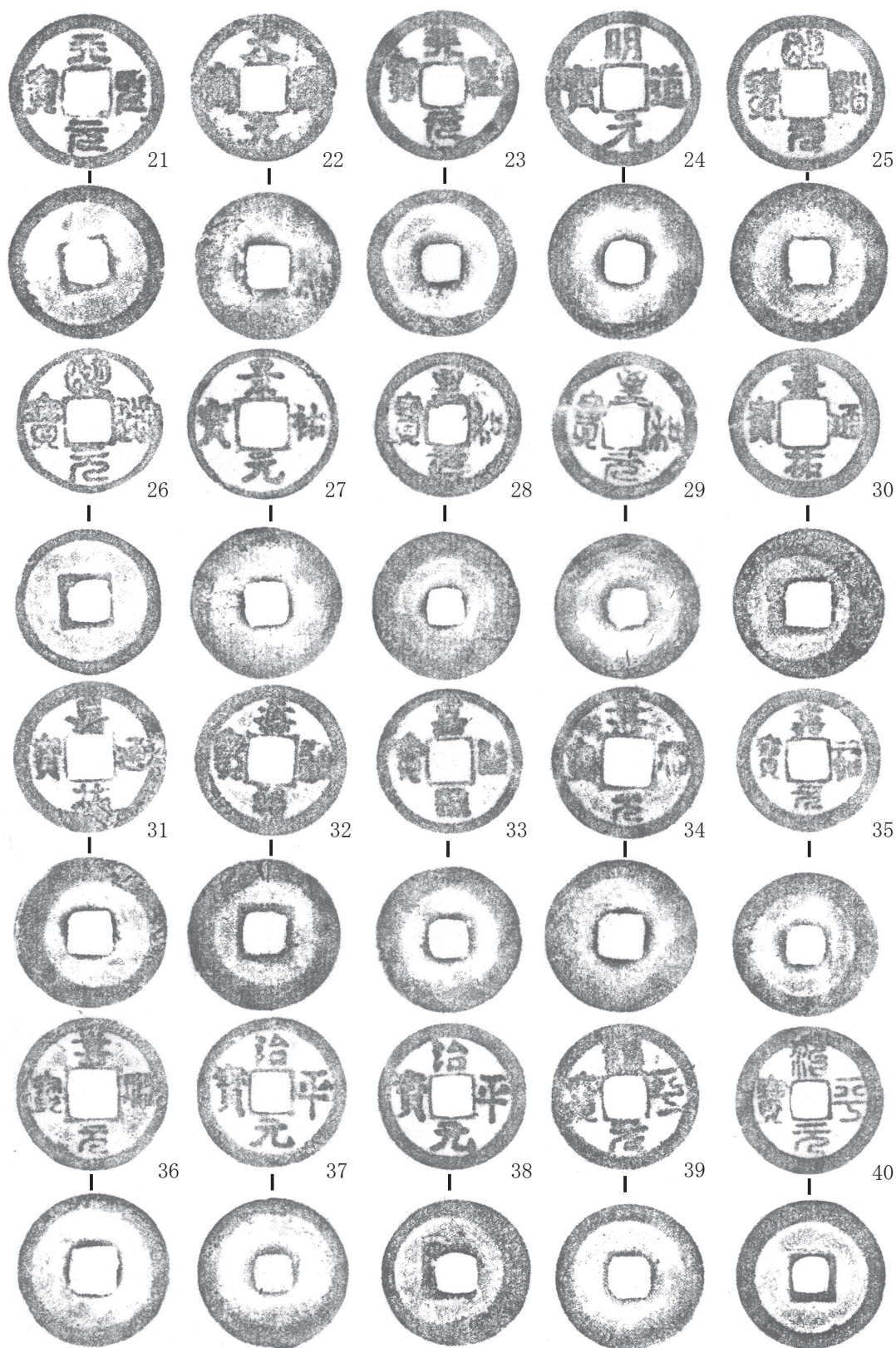


圖2 備蓄錢拓影 (1/1)

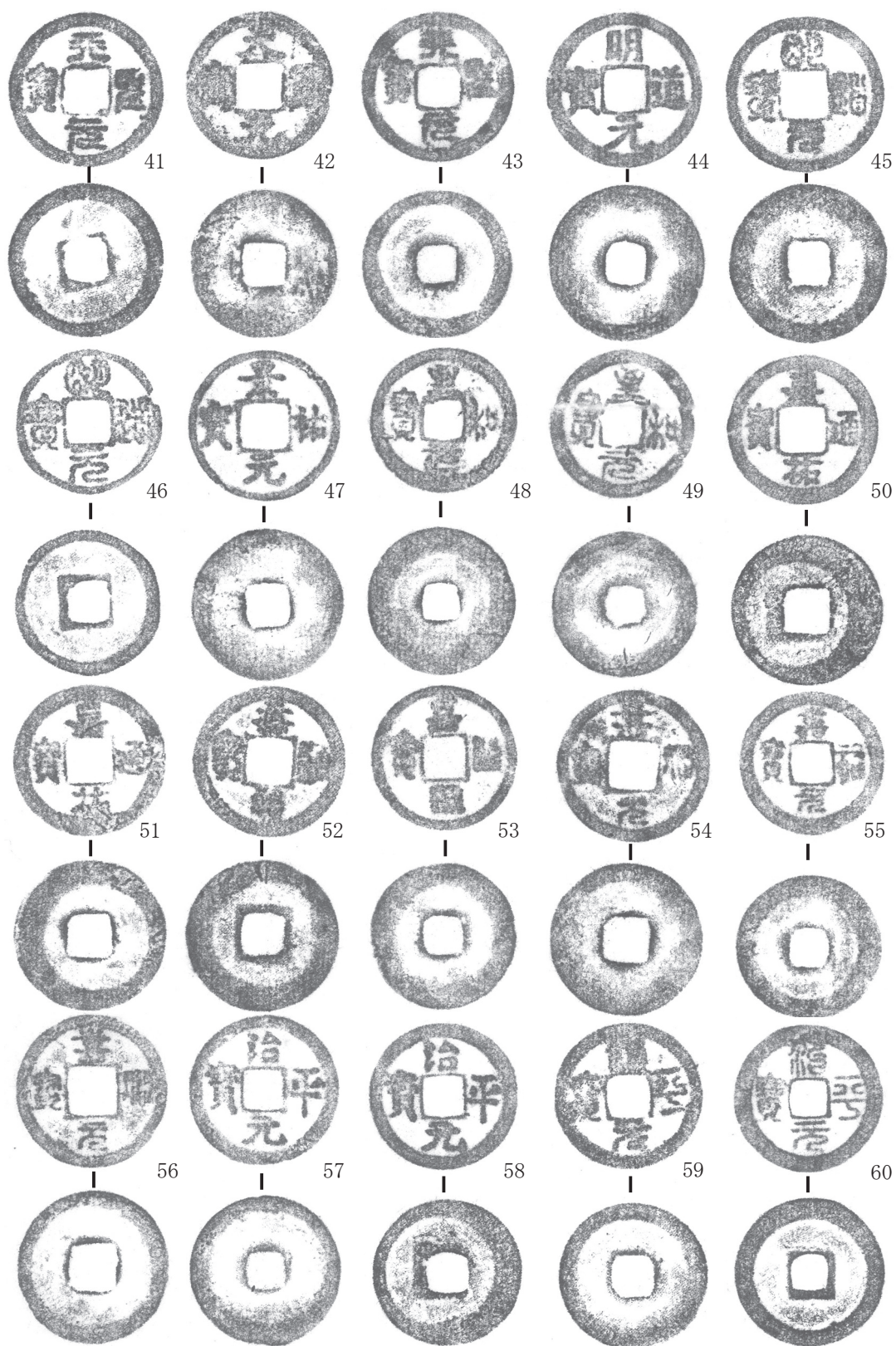


圖3 備蓄錢拓影 (1/1)

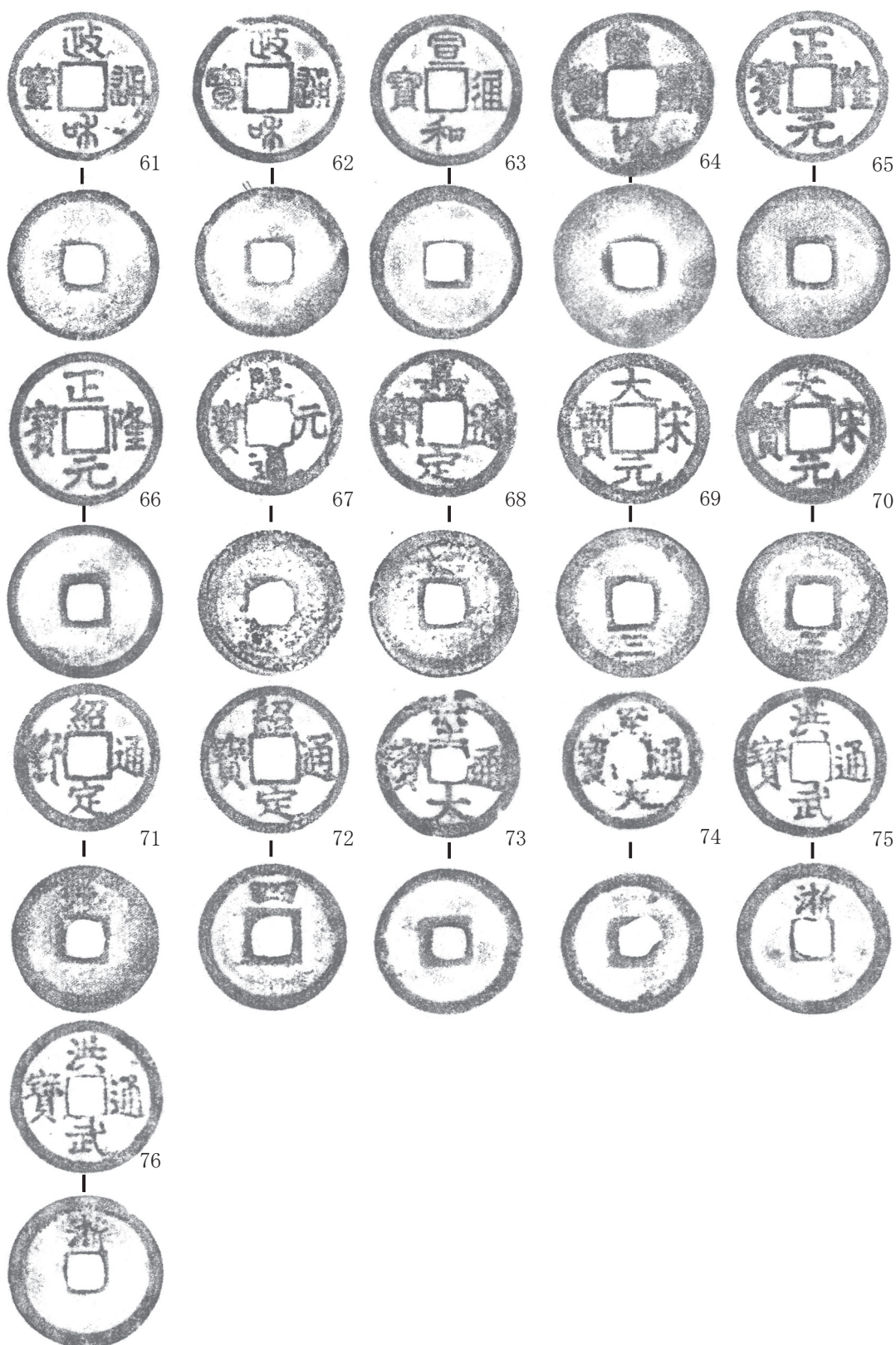


图4 備蓄錢拓影 (1/1)

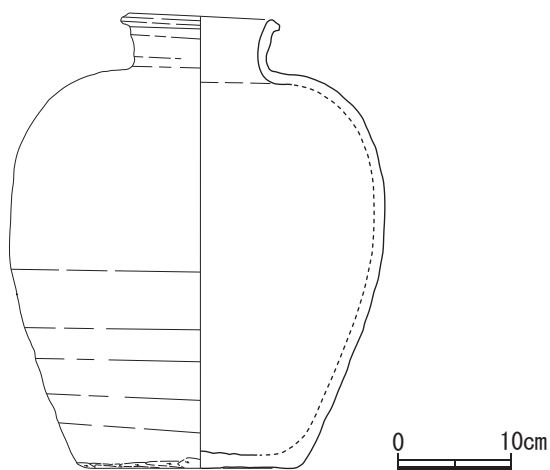


図5 備蓄銭埋納容器実測図（中世須恵器壺）



写真1 銭貨が収められていた中世須恵器壺



写真2 中世須恵器壺内面の銭痕



写真3 中世須恵器壺底部外面のハケ目痕



写真4 （左上）1 乾元通宝 2・3 唐国通宝
（左下）4 宋通元宝 5・6 太平通宝

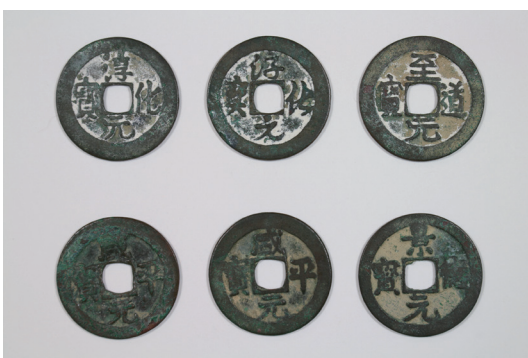


写真6 （左上）7 淳化元宝 9 至道元宝
（左下）10 咸平元宝 12・13 景德元宝

